

(1) 特別課題研究

不焼成技術を活用した新規セラミックスの開発 (2/2)		NO. 7
不焼成材料の実用化研究 (1/1)		
研究機関/担当者	常滑窯業技術センター	吉元 昭二、永縄 勇人
研究の概要	研究の内容	アルカリ活性固化体とリン酸塩系固化体の不焼成技術を確立する。これらの固化体は原料に強アルカリ性や酸性の液体を加えることで容易に合成が可能である。しかし、酸アルカリの液体を使用することは製造に向かないため、実用化に向けてこれらを含まない原料による固化技術を開発する。
	研究の目標	アルカリ活性固化体では強アルカリの液体、リン酸塩系固化体では酸の液体を水への溶解度が小さい粉末に置換することを目標とする。また、目標とする特性は、陶磁器タイル（外装床タイル）のJIS規格で規定された吸水率10%以下、破壊荷重1080N以上とする。
	備考	[県] あいち産業科学技術総合センター管理運営事業費

(2) 経常研究

常滑焼製品のための新規な加飾技術の開発 (1/3)		NO. 12
テーブルウェアのための加飾技術の開発 (1/1)		
研究機関/担当者	常滑窯業技術センター	山田 圭
研究の概要	本研究では、常滑焼製品のための新規な加飾技術について、陶磁器製品のみならず金属製品、繊維製品など多様な製品や、様々な芸術・美術運動などを対象に幅広く調査を行い、これにより得られた成果を用い、常滑焼製品の製造工程に合致させる加飾技術の開発を行うものである。28年度はテーブルウェアを採り上げる。	

粘土瓦の耐凍害性評価技術の開発 (2/2)		NO. 13
粘土瓦の物性値における耐凍害性評価 (1/1)		
研究機関/担当者	常滑窯業技術センター	松田 喜樹、深澤 正芳、山口 敏弘
研究の概要	瓦用粘土の混合割合、焼成温度などの条件を変えて窯業材料試験片を作製し、凍害試験を実施して耐凍害性評価を行う。また、窯業材料試験片の作製条件や吸水率などの物性を測定し、物性と耐凍害性との相関を求める。窯業材料試験片の作製条件や物性と耐凍害性との相関を把握することにより、耐凍害性を評価する期間を短縮できる試験方法の確立を目指す。	